

# にいがたの くらしと自治

2026年5月号

2026年5月15日



▲第97回メーデー新潟県中央集会(5月1日、新潟市中央区)

## にいがた自治体研究所

〒950-0901 新潟市中央区弁天3丁目3-5 新潟マンション305号

TEL 025-240-8645 Fax 025-240-8646

e-mail: njitiken@yahoo.co.jp

「にいがた自治体研究所」のホームページへ⇒



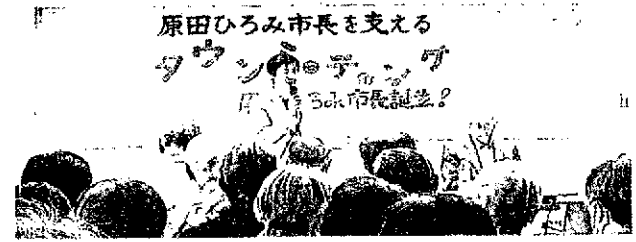
# 地方から新しい流れを

## 住民参加が自治を変える

「市民の『政治を変えた』という思いを、政策に反映させるうえで重要なポイントは何でしょうか。」「市民の『政治を変えた』という思いを、政策に反映させるうえで重要なポイントは何でしょうか。」「市民の『政治を変えた』という思いを、政策に反映させるうえで重要なポイントは何でしょうか。」

### 中山徹 奈良女子大学名誉教授に聞く

補助金事業を実施している。また、公共施設や住民サービスの維持も重要だ。図書館や学校の統廃合、バス路線の廃止が進む中、住民生活を支える機能を守るのは自治体の大切な責務で、財源確保も含め工夫が必要だ。



市民と対話する原田ひろみ新市長（写真：真興中央）＝4月18日、東京都清瀬市

住民が行政に要求を行って「財源がない」「2040年に向けて人口が減るため事業縮小は避けられない」などの回答がよく返ってきます。しかし、生活苦の主な原因は人口減少ではなく、実質賃金の低迷や格差拡大が原因なので、将来不安を理由に要求を抑える必要はありません。また行政は、公共施設削減には「国立社会保障・人口問題研究所」が示したより厳しい人口減予測を使い、大型開発には独自の素朴な推計を使うなど、データを使い分ける傾向があります。将来を見据えたまちづくりについても「自動運転や空飛ぶクルマ」など夢の技術ばかりで、移動困難者が直面している「公共交通が不便」という課題の解決にはつながらず、住民が学び、収入増を見込み、再開発でタワーマンションを建設する自治体も多いですが、維持費が高く、数十年後の建て替えはほぼ不可能です。今でさえ公営住宅の老朽化や空き家の増加が社会問題となっていて、タワマンが乱立すれば、深刻な問題を生むでしょう。将来に負債を残すまじうくりは避けるべきです。

住民と行政との関係は変わっていくべきです。最近の首長選挙では自民党が推す現職候補者が相次いで落選するなど、以前と明らかに違う動きが見られます。昨年の大阪府中岡町や、今年東京都清瀬市長選、東京都練馬区の各首長選では、共産党員の候補者や共産党が応援する候補が勝利しています。

清瀬市では、前市長が、市民から長年親しまれてきた地域図書館を突然廃止する一方、国鉄時代の豪華客車を公園に設置する事業に多額の税金を投じたことで不満が高まり、新市長が誕生しました。物価高による生活苦も重なり、「自治体は何をすべきか」という疑問が「現状を変えたい」という市民の強い意思へとつながったのです。(つづく)

# 地方政治の再生に向けて

## 住民参加が自治を変える

各地の首長選挙で自民党が推す候補の落選が目立つ一方、東京都清瀬市や練馬区などで、日本共産党などが応援する候補者が勝利する新しい流れも始まっています。「自治体を自分たちの手で変えたい」という思いは、いまや各地へと広がりを見せています。地方の新しい流れをどう本流にしていくか、地方政治に詳しい中山徹奈良女子大学名誉教授に聞きました。(土屋知紀)



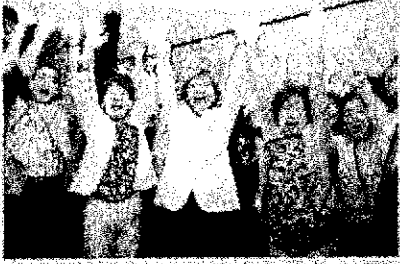
なかやま とおる 1959年大阪府生まれ。奈良女子大学名誉教授。自治体問題研究所理事。工学博士、都市計画・自治体政策。著書に「いま、核のない地域を築くために」「自治体の役割」「地域から築く自治と公共」など多数。

### 中山徹 奈良女子大学名誉教授に聞く

「自治体を取り替く現状を、一方で社会保障を削り、大企業や富裕層を優遇する政策を、どのように見えていますか。」「自治体を取り替く現状を、一方で社会保障を削り、大企業や富裕層を優遇する政策を、どのように見えていますか。」「自治体を取り替く現状を、一方で社会保障を削り、大企業や富裕層を優遇する政策を、どのように見えていますか。」

この記事は、「しんぶん赤旗」日刊紙5月9日付および10日付から転載させていただきました。

## 大阪 忠岡町長に是枝氏 町民と共に元維新町政転換



(写真)当選を喜ぶ(前列左2人目から右へ)高迫、是枝の両氏ら=18日、大阪府忠岡町

大阪府忠岡町長選が18日投開票され、日本共産党も参加する「明るい住民本位の忠岡町政をつくる会」の是枝綾子氏(61)=元共産党町議=が、保守系の元町議2氏を破り、初当選しました。投票率は前回より5%近く上がり、前維新町長の官製談合による不正などを受け町政を変えたいという住民の声が是枝氏に寄せられました。府内で共産党員首長は2006年の東大阪市長以来。

当選を決めた是枝氏は、「みなさんの支えがあつての勝利です。町民全体の利益を守っていく立場で頑張りたい」と強調。公約の「産廃キツパリ中止」「最低制限価格の事前公表による談合防止策」「20億円の基金を活用した物価高騰対策」実現への決意を語りました。事務所には多くの町民や河野隆子、二家本英生の両党町議も駆け

付け女性町長の誕生を喜びました。同日投票の町議補選で当選した日本共産党の高迫照子氏(78)=新=も「女性町長誕生で忠岡を変えようと訴えてきました。与党の共産党議員として頑張ります」と決意を述べました。

開票結果は次の通り。

当是枝 綾子61無新 2367  
松井 匡仁55無新 2302  
三宅 良矢46無新 1920 (投票率50・64%)



## 「しんぶん赤旗」2026年3月31日付 清瀬市長に原田氏 市民奮闘 自公推薦現職破る 「図書館守って」に込め 元党市議首長誕生

29日投開票された東京都清瀬市長選で、「市民とともに市政を変えるきよせの会」から無所属で立候補した原田博美氏(50)=日本共産党、社民党、新社会党、緑の党など推薦=が、自民・公明が推薦する現職の渋谷桂

司氏(52)を破り、初当選しました。

同市では渋谷市長のもと、昨年3月末に地域図書館が廃止され、市内に6館あった図書館が3館に減らされていました。市の地域図書館廃止の方針に対し、住民投票の実現を求めるなど存続を求める市民の運動が広がりました。「きよせの会」は、地域図書館が市民に知らされずに廃止されたことに怒りをもち市民を中心に結成されました。原田氏は、共産党市議を6期23年間務め、図書館廃止に反対する市民とともに運動を続けてきました。

選挙戦で原田氏は「負託を受けた大事な市議の議席を辞してでも、市長を代えなければいけない、と本気で思ったから立候補しました」と繰り返し訴えました。「きよせの会」「原田ひろみ勝手連」などが連日、シール投票で対話を広げ、SNSに動画や写真を投稿して、原田さんの決意や政策を届け続けました。原田氏は市民の声がちゃんと届く市政の実現、対話によるまちづくりなどを柱に政策を訴え、選挙告示前には市内8カ所でタウンミーティングを開くなど、市民との対話を進めてきました。

開票結果は次の通り。

当 原田博美50無新 13064  
渋谷桂司52無現 11746  
(投票率40・18%)

